

病害虫防除技術情報第17号

平成 28 年 1 月 14 日

三重県病害虫防除所

イチゴのハダニ類が増加しています！
発生密度が高くなならないうちに薬剤散布を行ってください。

1. 対象作物：イチゴ
2. 病害虫名：ハダニ類
3. 発生状況：例年より早くから密度の高い状況が続いています。

(1) 巡回調査時点における定点ほ場では、防除の実施や天敵の放飼により、発生状況は平年並となりましたが(図)、生存虫が少なからず認められ、今後さらに増加の恐れがあります。

(2) 一般圃場においては、発生量は平年より多い状況です。

(3) 1 か月予報(1 月 7 日・名古屋地方気象台発表)によると、向こう 1 ヶ月の平均気温の高い確率は 50%と予想されており、ハダニ類の発生に好適な条件が続くと考えられるため、引き続き注意が必要です。

表 イチゴのナミハダニに対する薬剤感受性検定試験結果
(三重県農業研究所)

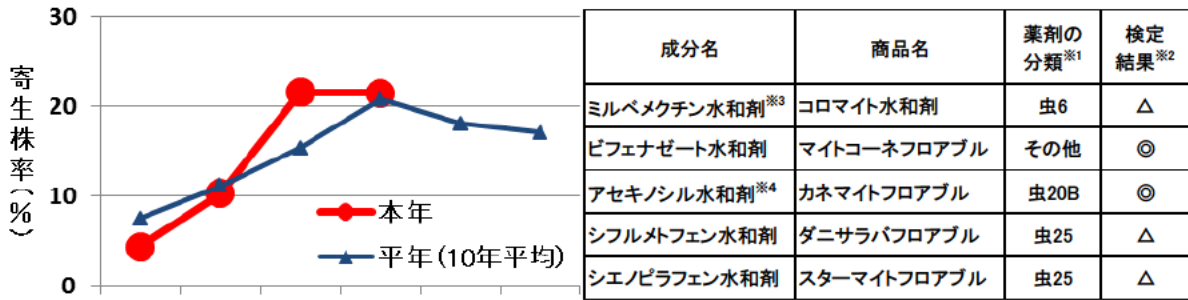


図 巡回調査におけるハダニ類の寄生株率

※1: 平成26年版三重県病害虫防除の手引き参照。

※2: 雌成虫の補正死亡率が85%以上の検定事例数の割合(%)を算出し、その割合が75%以上:◎、50%以上75%未満:○、25%以上50%未満:△、25%未満:×、とした。

※3: ミルベメクチンは天敵(チリカブリダニ、ミヤコカブリダニ)への影響に注意する。

※4: アセキノシル水和剤は薬害(葉裏の変色)に注意する。

4. 防除上の注意事項

(1) 現在発生が少ない場合でも、多発すると防除が難しくなります。圃場全体をよく観察し、発生密度の低いうちに薬剤散布を行ってください。

(2) 薬剤散布前に下葉を整理し、葉裏にもかかるよう丁寧に散布してください。

(3) ハダニ類は薬剤抵抗性が発達しやすく、同一系統薬剤の連用により薬剤感受性が低下する恐れがあります。県内においても、薬剤に対して感受性が低下した個体群が確認されています(表)。

(4) 薬剤の防除効果が低い場合は、薬剤に対して感受性が低下していることが考えられるので、気門封鎖剤や天敵(カブリダニ類)を活用してください。

(5) ハダニ類の密度が高い状況で天敵を導入する場合は、薬剤防除(気門封鎖剤または天敵に影響が小さい薬剤)で一旦ハダニ類の密度を下げた後で導入してください。

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。